



季節のエッセー



文・澤口 たまみ
絵・永澤 美貴子

「ナガハシスミレ」

(スミレ科)

別名「テングスミレ」。
スミレの語源説は、大工さんが
線を引くのに使う「墨入れ」に
花の形が似ているから、というのが一般的。
スミレの仲間は、花びらの一部が距と呼ばれる
袋状の構造になって、
後ろに突き出しているのが特徴である。
なかでもナガハシスミレの距は、
1センチ以上もある堂々たるもの。
スミレを使った草花遊びの一つに、
互いに距を引っかけて、引っ張り合う
という花相撲がある。スミレの仲間を
「スモウトリバナ」（相撲取り花）と
呼ぶ地方があるのはそのためだが、
この天狗どの、さぞかし相撲が強かろう。
おまけにこのスミレ、いかにも天狗らしく、
雪深い山中がお好みという。
北上山地と奥羽山脈で、
その分布の違いを比べてみるのも面白い。

参考資料: 澤口たまみ著『岩手の野草百科』(岩手日報社発行)より

純情産地発
クララ

KLARA vol.823
2018.2

タイトルのKlara (クララ) は、宮沢賢治の手帳にしている言葉で、エスペラント語で「晴」「暖かい」を意味します。全農の未来がそして世の中の全てが、明るく晴れやかにという願いが込められています。

みんなの力で!



がんばろう!岩手
純情産地いわて

contents

季節のエッセー いわての野草	02	みんなの分教場	07
特集 食の安全・安心確保の取り組みについて	03	報告! 出向く活動班	08
消費地だより	06	純情むすめ活動記	09
みのるinfo	06	純情人	09
		ニュースワイドアングル	10

特集

食の安全・安心確保の 取り組みについて

資材部



残留農業分析機器(2台)



岩手県版農業生産工程管理(GAP)
<http://www.pref.iwate.jp/nougyou/seisan/kankyuu/014895.html>

「岩手県版農業生産工程管理(岩手県版GAP)」は下記のホームページから入手できます。

4. 今後について

本会では、より速く正確な残留農薬分析を実現するため、分析法の改良や高性能な分析機器の導入など体制面での強化を進めます。そして、長い間かけて確立されてきた「純情産地いわて」のブランドを維持していくため、今後も科学的な視点から生産者をサポートしていきます。

■ 営農技術課で実施する分析業務

- (1) 残留農薬分析
 - (2) 麦赤カビ毒分析
 - (3) 放射性物質測定
 - (4) 米食味分析
 - (5) 麦・大豆成分分析
 - (6) 米DNA検査
 - (7) 粗飼料分析
 - (8) 土壌診断
- 農産物の安全性を確認する分析
- 農産物の品質を確認する分析
- 農畜産物の生産に関する分析

1. はじめに

本会では、純情産地いわてブランドの維持・向上のため、食の安全・安心確保に向けた科学的な分析を実施しています。その種類は、農産物の安全性を確認するためのもの、農産物の品質を確認するためのもの、その他農畜産物生産に関するものがあります。

今回は、その中から消費者と生産者の両方から関心の高い残留農薬分析についてご紹介します。

2. 残留農薬分析

本会の残留農薬分析は、全国のJAGグループの中でも早い平成5年に開始しました。その後、多くの農薬成分を一齐に分析できるよう分析法の改良や分析機器の強化を図り、現在に至っています。

(1) 分析農薬成分数

分析する農薬成分は、効率的に県産農産物の安全性を確認するため、県内の農薬流通実態に即した農薬成分としており、平成29年度の分析農薬成分数は191農薬成分を分析しています。分析する農薬成分は毎年見直しを行い、県内に流通する農薬の7割程度をカバーするよう努めています。

(2) 本会の残留農薬分析の特徴

本会の残留農薬分析では、分析する農産物の防除記録を提出していただくことにしています。提出していただいた防除記録の記載内容と分析結果を突き合わせ、農薬の使用方法についても確認を行います。

これは、検出された農薬成分が、使用した農薬に起因したものであることを確認するため、また、生産者が正しく農薬を使用し、使用した内容を防除記録に正しく記載していることを確認するために実施しています。

このような取り組みは、全国のJAGグループの分析機関においてもほとんど実施例がなく、不測の事態が発生した場合の速やかな原因究明や、残留農薬分析結果を効率良く生産現場にフィードバックするための岩手独自の検査体制です。さらには、年間を通じた検出傾向や注意事項について研修会を開催し、農薬適正使用の意識向上に取り組んでいます。

(3) 農薬の適正使用

残留農薬分析は、農産物の安全性を確認することが目的ですが、農産物の安全性を確保するためには、生産者が農薬を正しく使用することが大前提となります。

農薬を正しく使用する上で最も重要なことは、農薬をラベルどおりに使用することです。ラベルどおりに使用することで農薬の効果を十分発揮させることができ(経済性向上)、残留農薬基準値超過を防止することができます(安全性確保)。

また、農薬を使用する際には、近隣作物へのドリフト対策や防除に使用した器具の十分な洗浄等について注意することも農薬適正使用の重要なポイントとなります。

3. GAPの活用

農産物の安全性の確保や環境の保全、労働安全の確保のため、農作業の各工程で点検項目をまとめ、作業を実施、記録、点検・評価して改善する取り組みとしてGAP(農業生産工程管理)があります。

GAPには様々な種類がありますが、県が作成した「岩手県版農業生産工程管理(岩手県版GAP)」は農林水産省の「農業生産工程管理(GAP)の共通基盤に関するガイドライン」に完全準拠しており、生産者が取り組むべき事項が整理された内容となっています。

GAPに取り組むことで、安全・安心な農産物を生産するため留意すべき点が明確になり、さらには日頃の農作業の点検にもなりますので、ぜひGAPを活用するようお願いいたします。

農薬適正使用のポイント(1)

『ラベルの記載内容を確認して使用する』

▶ 農薬の使用はラベルの記載内容どおりに使用する「ラベル主義」が基本

作物名	適用病害名	希釈濃度(%)	使用流量(L/10㎡)	使用時期	本剤の使用回数	使用回数	防除効果
トマト	アブラムシ類	1,000~2,000	100~300	前日	3回以内	3回以内	3回以内
ミニトマト				3日前	2回以内	散布	2回以内
キャベツ	アオムシ コナガ	1,000~1,500		7日前	3回以内	3回以内	3回以内

- 【遵守事項】
- ① 適用作物
 - ② 使用量/希釈倍率
 - ③ 使用時期
 - ④ 農薬の使用回数
 - ⑤ 農薬成分の総使用回数

- 【その他注意事項】
- ・ 被害の注意
 - ・ 有効年月を過ぎた農薬は使用しない

農薬適正使用のポイント(2)

『使用後は散布器具を十分洗浄する』

- ▶ 散布器具の洗浄不足は、基準値超過の原因となる
- ▶ 散布器具の洗浄が不十分だと、タンクやホースの残液が次回使用する作物に散布されることになる
- ▶ 散布器具に残った農薬は、一度乾くと取れにくくなることから、散布後すぐに洗浄することが大切

- 〈散布器具の洗浄方法〉
- ① タンクの中を水で洗う
 - ② そのまま、散布するようにホース、ノズルを洗浄
 - ③ その作業を3回繰り返す
- * 作物に農薬がかからない場所で行う
 * 計量に使用した容器も洗浄する

農薬適正使用のポイント(3)

『農薬のドリフトは、しない、されない』

残留農薬分析で判明する、主な農薬ドリフトのパターン
 ① 果樹→果樹 ② 果樹→野菜 ③ 野菜→野菜 ④ 米→米

- 強風時は散布しない
- 作物に近い位置で散布する
- 他作物を栽培する際には、十分距離をとる
- 他作物との距離が近い場合は、一時的にシートを被せる
- 散布機の圧力を上げすぎない
- ドリフト低減ノズルを使用する
- より多くの作物に適用があり、収穫日近くまで使用できる農薬を選ぶようにする
- ドリフトしにくい剤型を選ぶ
- 周辺の生産者と情報共有をする(ドリフト被害防止)

農薬適正使用のポイント(4)

『防除記録は正確に記載する』

- ▶ 防除記録は、不測の事態が発生した場合に原因追及の資料になるだけでなく、生産者自らが適正に使用したという証拠になるので、自分を守るためという意識で記載する
- ▶ 【農薬を使用する者が遵守すべき基準を定める省令】第9条農薬使用者は、農薬を使用したときは、次に掲げる事項を帳簿に記載するよう努めなければならない。
 - (1) 農薬を使用した年月日
 - (2) 農薬を使用した場所(使用したほ場が特定できるように)
 - (3) 農薬を使用した農作物等
 - (4) 使用した農薬の種類又は名称(剤型までフルネームで)
 - (5) 使用した農薬の単位面積当たりの使用量又は希釈倍率
 - ◆ 粒剤、粉剤、除草剤等は…単位面積当たりの使用量
 - ◆ それ以外は…単位面積当たりの希釈倍率

純情ブランド消費地の「今」をレポートします。

消費地販売部

消費地だより

『JA全農いわて』の職員として思うこと

昨年4月よりJA刺倉農推進部米穀課から出向しております、柏山潤です。

私が所属する「消費地販売部消費地販売課」は、築地市場を含め現在9つある東京都中央卸売市場の1つである「大田市場」の中に事務所を構えており、米穀と園芸の担当者がデスクを並べて日々の業務を行っております。(他に品川・大阪・名古屋にもそれぞれ職員が駐在しております。)

さて、私の担当業務は、大消費地である首都圏において、岩手県産米の販売推進と販路拡大を目的として取引先と商談を行うこと、また、主にデパートやスーパーなどの量販店での販売促進活動イベントを行い、消費者へ直接、県産米を宣伝・PRをしています。また、JAや組合員の方々が消費地研修や、県産米の宣伝PRを目的とした販促イベントに参加されるため上京した際のご案内やお手伝い、取引先など消費地の方々が岩手へ産地訪問や圃場視察をされることなどの準備・段取りを行うことなども重要な任務の1つとなります。

このような業務を通じ、「純情産地いわて」の生産者の方々が丹精込めて作り上げた「おコメ」という



神奈川県横浜市アピタ長津田店で開催された「11/23 コミュニケーションの日」の販促イベント

素晴らしい商品を単に売るだけではなく、「産地と消費地をつなぐ」、文字通り懸け橋的な役割を担っている嬉しさを覚えると同時に、その責任の重大さを感じております。

最後に、平成29年産は夏場の日照不足などの影響で東北をはじめ、多くの米産地で軒並み収量が減少しています。また、近年は新品種が続々誕生し「ブランド米戦国時代」と言われており、お米を取り巻く環境が変わっていく時代に突入しています。さらに今年、平成30年は生産調整の見直しの初年度にもあたることから、米産地にとってはまさしく大きな転換期と言える年となりそうです。そんな中、「JA全農いわて」の職員として消費地で何が出来るかを見極め、考えながら仕事をしていこうと思います。



消費地販売課 柏山 潤

みんなの分教場

平成29年産米の検査概況について

米穀部 米穀販売課 保管アドバイザー 伊藤 専一

農林水産省は12月5日、平成29年産米の作柄状況を全国1000の「平年並み」で確定したことを発表しました。

都道府県別では、台風の影響から九州の一部・北陸で指数を下げているなか、北海道や中国が全国最高の103「やや良」、関東や東北は7月下旬から8月の日照不足やその後の低温等により99「平年並み」となっています。

岩手は、8月の低温日照不足や9月下旬から10月上旬の低温、長雨の影響から県全体の作況指数は11年ぶりの「やや不良」となっています。しかし、クズ米の発生が多く、農家の収量感には少なからずなっています。

表1 29年産米作況指数

全国	北海道	北陸	関東	近畿	九州	東北	岩手	青森	秋田	宮城	山形	福島
100	103	98	99	100	101	99	98	101	99	99	100	100

(農林水産省資料)

表2 29年産水稲うるち玄米の等級比率(11月末現在)

地域別	等級比率 (%)			
	1等	2等	3等	規格外
全国	82.6	14.7	1.6	1.1
東北	90.7	8.0	0.7	0.5
長野・全国1位	96.3	3.2	0.3	0.2
岩手・全国8位	92.9	6.4	0.7	0.1

(農林水産省資料)

表3 29年産米銘柄別等級比率(岩手県全体11月末現在)

種類	銘柄	28年産米比率	29年産米比率
水稲うるち玄米	ひとめぼれ	97.7%	92.5%
	あきたこまち	98.5%	94.4%
	いわてっこ	94.9%	90.0%
	金色の風	—	97.1%
	銀河のしずく	99.9%	98.0%

(農林水産省資料)

(カメムシ類)や乳白粒等の発現が昨年より少なく、整粒千粒重が確保されたことにより、品質は「平年並み」となっています。

品種別では、「ひとめぼれ」は、腹白・乳白粒等(シラタ等)の発現は少なく、「あきたこまち」は、千粒重や粒張りが良いものとなっています。また、「いわてっこ」は、低温傾向から青未熟粒が散見されたが品質は平年を確保しています。

「銀河のしずく」は、「あきたこまち」より生育は遅く、「どんぴしゃり」よりやや早いなか、青未熟粒の発現が見られるもののシラタ等の発現は少なく、光沢及び粒ぞろいが確保されています。「金色の風」は、青未熟粒及びシラタが散見されるが粒張りの良いものとなっています。

平成29年産水稲うるち玄米全国の農産物検査概況(平成29年11月30日現在)は、1等比率が82%と前年同期の83.7%より1.1ポイント低いものとなっています。

2等以下に格付けされた主な理由は、充実度・心白及び腹白、整粒不足によるものです。充実度22.5%、心白及び腹白21.6%、整粒不足21.5%、着色粒19.9%となっています。充実度は前年より1.2ポイント高く、心白及び腹白は前年より4.8ポイント、着色粒は前年より0.6ポイント低いものとなっています。

岩手県産米の初検査は、日照不足、長雨の影響等により、水稲もち玄米は昨年より1日遅い9月14日、水稲うるち玄米

は昨年より4日遅い9月25日となっています。

水稲うるち玄米の検査結果(11月末現在)は、1等比率が92.9%と前年同期の97.7%より4.8ポイント低いものとなっています。

2等以下の主な格付け理由では、充実度、形質(その他)及び整粒不足によるものです。前年28年産格付け理由が、着色粒が62.8%、形質(その他)は8.5%、今年産は充実度が29%、形質が21.8%、整粒不足が20.4%となつています。長雨の影響で刈取作業が進まず、刈遅れによる品質低下が心配されましたが、被害は少ないものとなっています。

品質概況は、低温日照不足及び長雨の影響により、青未熟粒の発現が多く、その他未熟や死米が散見されたなか、着色粒

最後に、長雨、天候不順にもかかわらず、生産者等の適切な品質調整の努力により、「安全・安心」、うまい米づくり運動が推進されました。

米の流通段階は、消費者実需者の食品に対する「安全・安心」への関心が強いなか、米を取巻く環境は毎年厳しいものがあります。

JAグループでは、多様な要望に対し、適正かつ公平に農産物検査を実施し、今まで積み上げてきた、純情産地いわてに対する信頼を失わない取り組みが大切となっています。農産物検査において、法令遵守はもちろんのこと、「調整検査・保管」の各段階での更なる細やかな対応をお願いし、平成29年産米検査の報告とします。

おすすめメニューをご紹介!!

みのもるinfo

みのもるダイニング MINORU DINING



「八幡平ポーク 時のゆめ」と「とすこまトマトの柔らかチーズチャップ煮(1,680円(税別))」

お客様の反応も上々で、「噛めば噛むほど味わい深い肉の味がする。」「肉とトマトの酸味の相性が抜群。」等々好評をいただいております。

「純情産地いわて」の愛情がたっぷり込められた、「八幡平ポーク 時のゆめ」と「とすこまトマトの柔らかチーズチャップ煮」をぜひご賞味ください。

今回は、純情産地いわての店「みのもるダイニング」の期間限定メニューをご紹介します。そのメニューとは、「八幡平ポーク 時のゆめ」と「とすこまトマトの柔らかチーズチャップ煮(1,680円(税別))」です。期間限定であるとともに、1日限定5食!!県産ひとめぼれのホカホカご飯、味噌汁、香の物付きです。ご飯は大量無料!!

八幡平ポークの「時のゆめ」とは、鮮度を保ちつつ、じっくり35〜45日間熟成させた(ウェットエイジング)熟成豚。旨味が凝縮した柔らかい熟成肉を、酸味がきいた県産のトマトピューレで煮込みました。このトマトピューレは、農事組合法人上小田代「クッキングトマトすずこまピューレ」。北上山地の美しい水、空気の下でのびのびと育ったトマトを完全手作業でピューレにしました。この八幡平ポーク「時のゆめ」と、「クッキングトマトピューレ」のコラボメニューです。

報告!



出向く
活動班

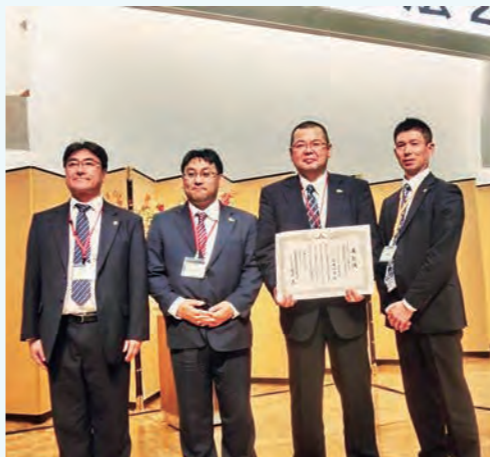


今回の報告者
担い手サポートセンター
出向く活動班
菊池 規

JA岩手ふるさと「TAC」パワーアップ大会
2017「JA特別表彰受賞並びに「銀座三越
みのりみるマルシェ」の開催について

「TACパワーアップ大会2017」
JA特別表彰受賞について

昨年11月16日(木)〜17日(金)、新横浜プリンスホテルで「TACパワーアップ大会2017」が開催され、JA岩手ふるさとがJA特別表彰(事業承継部門)を受賞いたしました。今大会では、農業界の世代交代を



JA特別表彰を受賞したJA岩手ふるさとの皆さんと生産者(右側)

着実に進めるための事業承継の取り組みをテーマの一つに掲げ、JA特別表彰に事業承継部門を新設しました。

〈取組内容〉前沢牛・奥州牛、牛乳の生産基盤を支えるため莫大な資産を有している畜産農家において、贈与税や相続税に対する知識不足のため事業承継が棚上げになっているケースが多いことから、平成29年度は畜産農家の事業承継を重点的に支援するとともに、JAにおける事業承継の担当部署も明確化することとなりました。

営農生活企画課が窓口となり、TACが事業承継について相談が必要な担い手をリ



事業承継に取り組む畜産農家とTAC

笑顔がはじける
純情むすめ
活動記



2017いわて純情むすめ
内田 怜奈

12月9日(土)に、イオン盛岡店で実施された「冬恋はるか」販売促進フェアに参加し、「冬恋はるか」の試食をお客様に提供しました。普段食べているりんごごと比べて糖度が高く、蜜が沢山入っていることや食感の良さをお客様に伝えました。お客様の反応は、「普段食べているりんごごと比べておいしい」「や」「食感のシャキシャキが凄いわ」という声が多く挙げられました。しかし、良いことばかりでなく、「お値段がもつとお手頃だ」「や」「うちでは家族が多いから買えないわ」という声も挙がりました。

その日の私は、美味しさや食感の良さをお客さんに伝えることができず、私もお客様の立場だったら、買わないと後悔し



「イオンでの「冬恋はるか」販売促進フェア」

「冬恋はるか」を買っただけではありません。ギフトにも喜ばれること間違いなしです。ぜひ、皆様一度でもいので、「冬恋はるか」を賞味ください。

「私には大学で栄養学を学んでいるではないか!もつ、良さを伝えられる!」と思ったのです!皆様に伝えたいことがあります。

りんごはカリウム、カルシウム、鉄、食物繊維、ビタミンC、有機酸などを含み、栄養価が高いため、欧米では昔から「一日の1個のりんごは医者を送る」と言われています。さらに、高血圧予防、コレステロール降下、便秘改善、疲労回復、虫歯予防、発育促進と多くの効果があり、ポリフェノール一種、プロシアニンなどによる抗酸化作用や老化防止も期待されているのです。「それなら、いつも食べているりんごでいい!」というお客様もいると思いますか…

ちよつと待つてください!

「冬恋はるか」は、日照条件や圃地を厳選し、樹上の果実を限りなく減らして、一つの実に養分を多く回しています。また、りんごのスペシャリスト達が手間を惜しまず一個一個に込めた愛情・純情と、岩手の厳しい寒さで鍛え抜かれています。よって、食感にはシャキシャキとした歯ごたえと、黄色いりんごには珍しいいたづらりの蜜。そして強い甘味と栄養価は他のりんごに比べて高いのです。



銀座三越みのりみるのマルシェ



品定めするお客様



りんご(赤い誘惑)の試食

ストアアップし、初期相談を行うとともに、県中央会担い手サポートセンターと連携し、「経営相談・管理サポート態勢強化事業」を活用することで、税理士の派遣による個別相談会で課題解決を図りました。JA各支店においても経営移譲の情報はTACシステムに力を入れ、担い手農家情報共有連絡会(部門連携会議)で情報の共有を図っています。

今回受賞した事業承継の取組事例は、「地上」1月号の「TAC」を起点に「個別対応」で事業承継を促進」に掲載されており、是非ご覧ください。

「銀座三越みのりみるのマルシェ」への出店について

昨年11月25日(土)、東京銀座三越みよりのりみるのマルシェ「岩手ふるさと」の「実り」を開催いたしました。マルシェでは、JAで取扱う農畜産物や加工品などを販売し、首都圏の消費者にJA岩手ふるさとの魅力発信してまいりました。

出品物は、岩手の最高級ブランド米の「金色の風」をはじめ、ひとめぼれ、りんご(赤い誘惑)、生しいたけ、ほうれん草・ピーマン、奥州手ごねハンバーグ、いわて奥州牛カレー、モーちゃん飲むヨーグルト、ドレッシング、は



大人気のお米すくい



アグリフューチャーJA岩手ふるさと

と麦茶、田楽味噌などで、JAを代表する農畜産物や加工品を販売しました。

生産者を代表して、JA岩手ふるさと米穀部会の鈴木哲也会長に参加して頂き、お米のコーナーを担当して頂きました。特に、イベントとして実施した1回100円のお米すくいは大好評でした。

1日だけのマルシェでしたが、来店されたお客様にJA岩手ふるさとと農畜産物の魅力を直接伝え、満足してお買い上げ頂くことができました。

JA全農いわての
純情人
じゅん じょう びと

趣味・特技

音楽鑑賞、ギター、スノーボード

現在の担当業務

市場当日の開設準備、成牛市場の県外出荷報告、初生牛・成牛市場の取りまとめの補助、在庫管理・資材注文などを行っています。

これからどんな職員になってみたいか

自分で見て吸収して、疑問に思ったことは周りの方々に聞いて教えて頂き知識を高めていきたいです。そして、頼られるような職員になりたいです。

その他アピールしたいこと

実家で牛を飼育していたことから牛は小さい頃から好きでした。小さい頃から身近に見てきた牛について詳しくなっていきたい畜産に貢献できるような職員になりたいです。

趣味・特技

登山、ロードバイク、スキー(クロスカントリー)

現在の担当業務

現在は花巻・遠野エリアを担当しておりJASSを巡回し、店舗の運営改善活動を行っています。また、各SSの実績の取りまとめを行っています。

これからどんな職員になってみたいか

様々な方々と接する機会が多い業務ですので臨機応変に対応し信頼される職員になれる様日々の業務に取り組めます。

その他アピールしたいこと

様々な経験と知識を身につけ頼れる職員になれるよう努めます。



畜産酪農部 家畜市場課
ささき しゅうと
佐々木 秋人さん



はしもと りょうへい
橋本 遼さん
北東北石油事業所

TAC活動のレベルアップをはかる

1月23日(火)・24日(水)

岩手県TACパワーアップ大会

J Aいわてグループ農業担い手サポートセンター出向く活動班は、盛岡市で、平成29年度岩手県TACパワーアップ大会を開催しました。TAC活動のレベルアップを目的として、県内TACや関係者65名が参加しました。1日目は、県内J Aから優良事例の報告や事業承継の取り組みについて講演、2日目はTACが活用する担い手への提案ツールの研修が実施されました。

活動報告として、J A新しいいわてにおける「農家手取り最大化に向けた取り組み」について、営農経済部米穀園芸課長 谷地正司氏が報告。平成30年度に農家手取り20%増大させることを目標に、コスト低減や省力化技術の導入による、生産性向上にむけて、実践メニューの提案ができるようJ Aと全農が連携しながら、担い手の経営改善に取り組んでいることを発表。また、J Aいわて中央 営農販売部営農企画課 小田島圭氏は、作付計画を視覚的に把握する事のできる、電子圃場図ソフト「SGIS」の活用事例を紹介し、手作業で紙地図に色づけをするといった手間を省き、J Aと担い手がリアルタイムで情報を共有することができるようになったと報告しました。

TAC活動の更なる飛躍に向けて、担い手との信頼関係を強化し、農家組合員の所得増大・農業生産の拡大につなげる活動をしようと意識共有がなされました。



TAC活動の実践例を共有しました(23日、盛岡市)

畜産技術の向上へ

1月24日(水)・25日(木)

平成29年度家畜繁殖技術講習会(家畜人工授精スキルアップ研修)

岩手県家畜人工授精師協会は、1月24日(水)～25日(木)に、岩手県立農業大学校で、平成29年度家畜繁殖技術講習会を開催しました。この講習会は、家畜人工授精技術の向上を目的とし、本県における繁殖成績の向上をねらって開催されています。1日目は、講義、2日目には、実技講習が行われました。

この講習会の参加対象者は、家畜人工授精師免許取得後、概ね5年以上とし、県内で家畜人工授精業務に従事している方、業務には少しずつ慣れながらも、なかなかコツが掴むことができない方や、さらなる上達を目指しスキルアップをはかりたい方が対象となっています。人工授精の腕は、畜産農家の経営を左右する重要な技術です。この講習会で、技術を磨いてもらい、早期受胎・出産により畜産農家の所得増大に繋げてもらうことが期待されています。

畜産酪農部生産指導課の大津信一課長は、「直腸検査所見の精度アップと不受胎の原因究明」について講演しました。授精師が、牛の妊娠や発情期を指先で見極めることができるよう、図や写真だけではなく、動画を流す等、現場に生きる講演を行いました。参加者は、熱心にペンをとり、2日目の実技講習に向けてイメージを膨らませました。さらなる上達を願い、大津課長は、「自分の診断が正しいかを確認することがスキルアップに繋がります。農家さんと相談しながら、精度を上げてほしいです。」と述べました。



講演をする大津課長(24日、岩手県立農業大学校)

スポーツに励む子供たちをサポート

1月6日(土)～8日(月)

第41回J A全農いわて いわて純情米選手権 岩手県ミニバスケットボール交歓大会

平成30年1月6日(土)～8日(月)の3日間、奥州市の2会場で、J A全農いわてが特別協賛している、「第41回 J A全農いわて いわて純情米選手権 岩手県ミニバスケットボール交歓大会」が開催されました。男子・女子それぞれ32チームが、日頃の練習の成果を発揮しようと試合に臨みました。

本会は、参加記念品として、県オリジナル水稲品種「銀河のしずく」が使用された「いわて純情米おにぎり」、「いわての牛乳」、「いわて純情もち」を、出場者全員にプレゼントしました。また、東日本大震災からの1日でもはやい復興を祈念し、沿岸地区から出場した15チームに、バスケットボールを渡しました。

本会畠山俊彰本部長は、6日(土)に行われた開会式で、「県内の小学生に健全に育ってほしいという思いで、大会を支援させていただいております。今まで練習したことを存分に発揮できるよう、選手の皆様のご健闘を祈念します。」と子どもたちを鼓舞しました。

大会結果は、男子の部では、「松園イーグルス(盛岡市)」が優勝。女子の部では、「太田東(盛岡市)」が栄冠を勝ち取りました。上位1～3位には、本会より、楯と「銀河のしずく」を贈呈しました。

男子

優勝	松園イーグルス(盛岡市)
準優勝	二戸中央(二戸市)
3位	一関南(一関市)
	水沢みなみ(奥州市)

女子

優勝	太田東(盛岡市)
準優勝	津志田ブルーウインズ(盛岡市)
3位	一関(一関市)
	桜台(花巻市)



選手たちにエールを送った本会畠山本部長



試合は白熱した戦いとなりました

1年の家畜市場の活況を願う

1月10日(水)～11(木) 県南家畜市場

1月17日(水)～19(金) 中央家畜市場

県南・中央家畜市場初せり

10日(水)～11日(木)に、J A全農いわて県南家畜市場(奥州市江刺区)において、17日(水)～19日(金)には、中央家畜市場(岩手郡雫石町)で、初せりが行われました。一頭あたりの総平均価格は、県南家畜市場では、81万1,764円、中央家畜市場では、73万1,894円でした。

各日、せりに先立ち、上場生産者・購買者と上場J A役員、県行政、関係市町村首長臨席のもと初市式が執り行われました。

10日(水)の初市式では、鏡開きに続いて、今年も消費拡大の願いを込めて小澤隆一農協五連副会長の音頭で牛乳での乾杯後、餅まきを行い、今年1年の家畜市場の活況を願いました。

市場開設者挨拶で、本会畠山俊彰本部長は、「今年の干支は戌年であり、守りを意味します。本会は、生産者をはじめとしたこれまでの関係者様との信頼関係をより強固にし、関係機関・団体一体となって、和牛繁殖基盤の維持・拡充に今後取り組んでまいります。」と挨拶しました。

岩手県の細川倫史県南広域振興局長は、子牛の価格高騰に触れながら、「県として、素牛の安全生産の体制強化に努め、繁殖と肥育のバランスが取れるよう取り組みます。」と述べました。



市場開設者挨拶を行う、本会畠山本部長(10日、県南家畜市場)



せりにかけられた子牛(10日、県南家畜市場)



編集
後記

刺すような冷たい空気。暖房から離れることが出来ず、お肌がパサパサ状態です。春の訪れが待ち遠しい今日この頃。

2月といえば、節分。太巻きを食べる家庭が多いと思います。私が生まれた頃は、節分

に太巻きを食べる文化は、岩手になかったそうです。恐るべし、企業の戦略。

(佐藤)



それぞれの春とともに。

君には89万人の同期がいる。

JAバンクを給与受取口座として新たにご指定いただくと、
この春、特製QUOカード(5,000円分)もらえる!



JAバンク特製QUOカード5,000円分を応募者全員にプレゼント!
※応募の条件等は以下のとおりです。■お申込期間:平成30年2月1日～5月
末日まで(当日消印有効) ■お申込方法:専用の応募ページまたはJAバンクHP
からお申込みください。■対象取引:平成30年2月から6月に新たにJAで給与受取口座を指定し、いずれかの月において5万円以上の給与のお受取りが確認できたお客さま。■景品内容等については、
予告なしに変更する場合や地域により異なる場合があります。・昨年度に当企画の景品を受領されたお客さまは対象外となります。・詳しくは、お取扱いのJA窓口までお問い合わせください。

新規口座、給与口座は、JAバンクへ!



JAバンクのキャッシュカードなら、平日日中の入出金手数料がコンビニATM(セブン銀行・イーネットATM・ローソンATM)でも無料!

コンビニATMをはじめとして
無料で使える
提携ATMが全国で約
69,000台!



※1) 無料となるお取引はATM及び時間帯によって異なります。 ※2) 平成29年3月末現在(JAバンク調べ) ※3) 一部設置されていない店舗もございます。
※JAバンクのキャッシュカードをお持ちのお客様は、JAバンクのATMによるご入金、ご出金、残高照会サービスをご利用いただけます。提携ATMはATMにより異なります。また、ATM提携時間であってもJAバンクのキャッシュカードによるお取引ができない場合がございます。詳しくはお近くのJAまたは、ご利用ATMの掲示等でご確認ください。セブン銀行・イーネットATM・ローソンATM、JAF マルチバンクのATMでは平日、日中提携時間の間に、提携関係のサービス手数料でご利用が可能です。セブン銀行・イーネットATM、ローソンATMでは、ご入金も無料でお利用可能です。提携関係は提携時間にかかわらず無料でご利用いただけます。イーネットATMはファミリーマート等のコンビニエンスストアに設置されています。また、コンビニエンスストア(ファミリーマート、ローソン)の一部の店舗においては、ATMが設置されていない場合、提携関係が提携ATMを稼働している場合、他ATM提携関係のATMが設置されている場合がございます。(平成30年1月末現在)



JA 新いわて / JA いわて中央 / JA いわて花巻 / JA 岩手ふるさと /
JA 江刺 / JA おおふなと / JA いわて平泉 / JA 岩手県信連

詳しくはお近くの JA 窓口までお問い合わせください。



私たち全農グループは、
**生産者と消費者を
安心で結ぶ懸け橋**
になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

